



魅力だより

2学期も終わりを迎えようとしていますが、学校の様子はいかがですか。

今回は、県「魅力あるプロジェクト研究協力校」の南さつま市立加世田中学校、和泊町立和泊小学校のこれまでの取組を紹介いたします。ぜひ、参考にしていただけるとありがたいです。

南さつま市立加世田中学校の取組（県指定「魅力ある学校づくりプロジェクト」研究協力校）

「授業に主体的に取り組んでいる」を重点項目に設定

→ 学年を中心とした授業改善と授業に内在化した生徒指導の実践

【1年部の共通実践】

- 授業の構え（二分前着席・一分前黙想、授業の準備）
- 授業の流れの確認（シートを使って流れを提示）
- 共通実践事項の掲示、指示の視覚化や焦点化

【3年部の共通実践】

- 授業の流れ（学習順序・学習方法）の提示
- 認め合う場面の設定
- 振り返りの時間の設定

【2年部の共通実践】

- 授業の構え（教材の準備、二分前着席・一分前黙想など）の確立
- 始まりの5分（休み時間との切り替え）、終わりの5分の確保（達成度の確認、次回以降の課題の発見）
- 振り返りを意識した授業の流れの提示

【授業に内在化した生徒指導】

- 授業デザインシートの活用
- 「生徒指導の実践上の4つの視点」を観点とした授業研究
 - (A) 自己存在感の感受への配慮
 - (C) 自己決定の場の提供
 - (B) 共感的な人間関係の育成
 - (D) 安心・安全な風土の醸成



意識調査「授業に主体的に取り組んでいる」～**強肯定**に当てはまる割合の変化～

学年	R7 5月	R7 7月
1年	57.0%	41.1%

学年	R6 5月	R6 11月	R7 3月	R7 7月
2年	56.9%	49.1%	36.0%	43.9%
3年	39.8%	45.5%	47.0%	53.8%

成 果

- 新規不登校数が、1学期末で0人、9月末時点で2人となっており、未然防止に一定の効果が見られた。
- 共通実践事項があることで生徒の休み時間から授業への切り替えや授業中の動きがスムーズになった。
- 学年で取り組むことで生徒の良さや課題を共有することができ、普段の学校生活での様子とリンクさせながら授業の改善に努めることができた。
- 生徒の中に「主体的」に学びに向かおうとする姿が見られるようになってきており、教師もその変化を実感している。
- 生徒の意識調査を指標とした取組を推進したことで教師が今まで以上に生徒の姿を観察したり、生徒の姿で授業を語ったりするようになった。
- 教師の中にも、より「主体的」に研修に取り組む姿が見られるようになり、同僚性の構築にもつながっている。



和泊町立和泊小学校の取組（県指定「魅力ある学校づくりプロジェクト」研究協力校）

「学校が好き」という児童を育てる → 授業に内在化した生徒指導の実践 + 個別最適な学び

【自己存在感の感受への配慮】【安全・安心な風土の醸成】

- なるほど、分かりやすいね（称賛の声かけ、児童と同じ目線での指導）。



【共感的な人間関係の育成】

- Aさんの考えも分かりやすいね（友達の話を最後まで聞く指導）。

【自己決定の場の提供】

- ここまで分かった。続きをヒントを見てみよう（ヒントカードの準備）。



【個別最適な学び】

- 学習課題の活用
- 学習方法や形態の自己決定
- ヒントカードの活用
- 練習問題の選択（ラスト10分）



「学校が好き」という児童を育てる → 特別活動に「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング」を位置付け実践

【SEL-8Sプログラムの実践】

SEL（ソーシャル・エモーショナル・ラーニング）※生徒指導提要 P26
・自己の捉え方と他者の関わり方を基盤として、社会性（対人関係）に関するスキル、態度、価値観を身に付ける学習であり、社会性と情動に関する心理プログラムの総称
⇒ 学級活動の時間や朝の時間（SELタイム）にロールプレイ等を実施。

「じょうずだね」

相手をほめたり認めたりすることの大切さを知り、ほめ方のポイントを使ってほめほめ名人になろう！



【委員会活動の見直し】

- 「学校をよりよくしようプロジェクト」と題して、児童が自ら学校における課題を見付け、改善のアイデアを出し合い、実践するなどの取組を実施。

児童に対する意識調査の結果（強肯定の割合）

質問項目	R5 3学期	R7 1学期
学校が楽しい	55.2%	60.8%
みんなが何かするのは楽しい	73.1%	77.2%
授業に主体的に取り組んでいる	35.4%	54.5%
授業がよく分かる	47.3%	50.8%

児童の社会的能力の認識結果

社会的能力	R6 9月	R7 7月
対人関係	3.16	3.41
責任ある意思決定	2.92	3.18

成果と考察

- 「学校が楽しい」と感じている児童の割合が約5%増加した。
→ 授業改善や各委員会活動の取組により、学校生活への肯定的意識が高まったのではないか。
- 「授業に主体的に取り組んでいる」と感じている児童の割合が35.4%から54.5%へ増加した。
→ 算数科を中心とした授業改善が児童の主体性の向上につながったのではないか。
- 「対人関係」、「責任ある意思決定」の項目で0.2ポイント以上上昇し、有意差が見られた。
→ SEL-8Sプログラムの実践を通して人間関係づくりの力が伸びてきたのではないか。

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることだと思います。ちょっとしたことでも、どうぞお気軽にお尋ねください。（市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。）

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班（田中・福元）

TEL 099-286-5532

Email seitoidou@pref.kagoshima.lg.jp

